



カラーとモノクロを考える



白黒写真のモノクロ技法
の説明

みのすけ



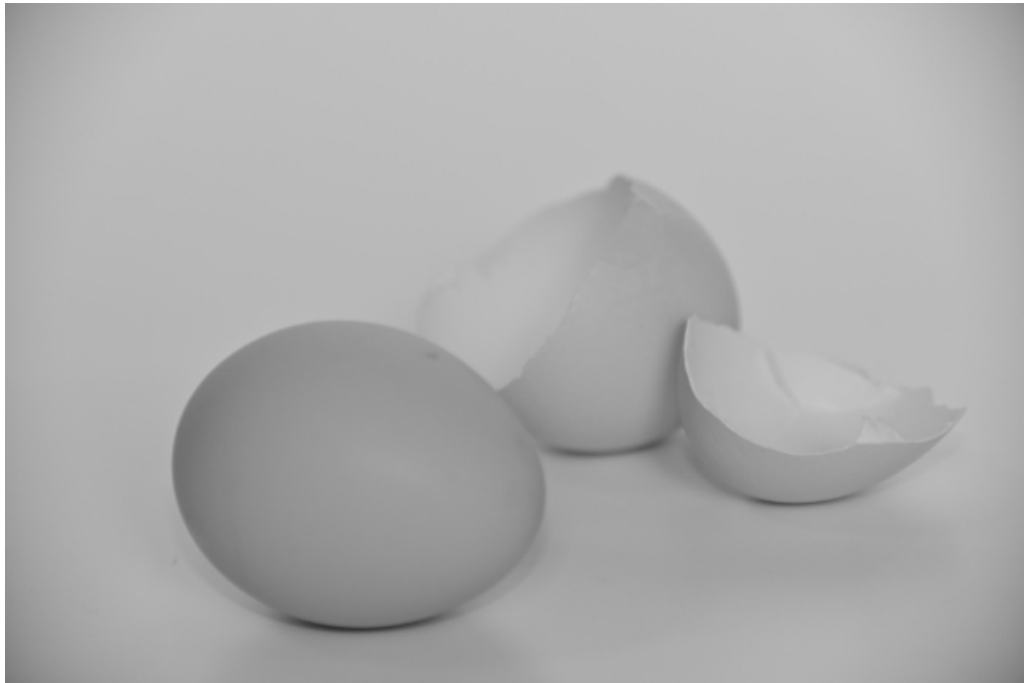
目次

カラーとモノクロを考える	1
カラーとモノクロを考える②	6
「卵が先か、鶏が先か」写真撮影を考える	14

カラーとモノクロを考える



DSC\



D S C \

カラーで撮るかモノクロで撮るか、悩んだりしませんか？

今回はモノクロの良さを書きます。

昔のことになりますが、荒れ寺の美しい桜に出会った時です

廃墟の寺に 1 本の桜がきれいに咲いていました。しかし桜の付近には電線やバケツ、廃品が散在していました。

桜にピントを合わせ、絞りを開放気味にしましたが、ズームレンズしか持ち合わせがないので、廃品をぼかせず写り込み、桜を活かせませんでした。

マイナス補正で暗部を濃くしたり、スポット測光で全体を暗く撮っても、廃品のカラー色が桜のピンクの美しさを邪魔してしまいます。

後日最終的にモノクロで撮ることにより、廃品のカラーとのゴチャゴチャ感が押さえられ、白黒なので色の変化が少なく、ゴチャゴチャ感が軽減され、モノクロの良さを再確認しました。

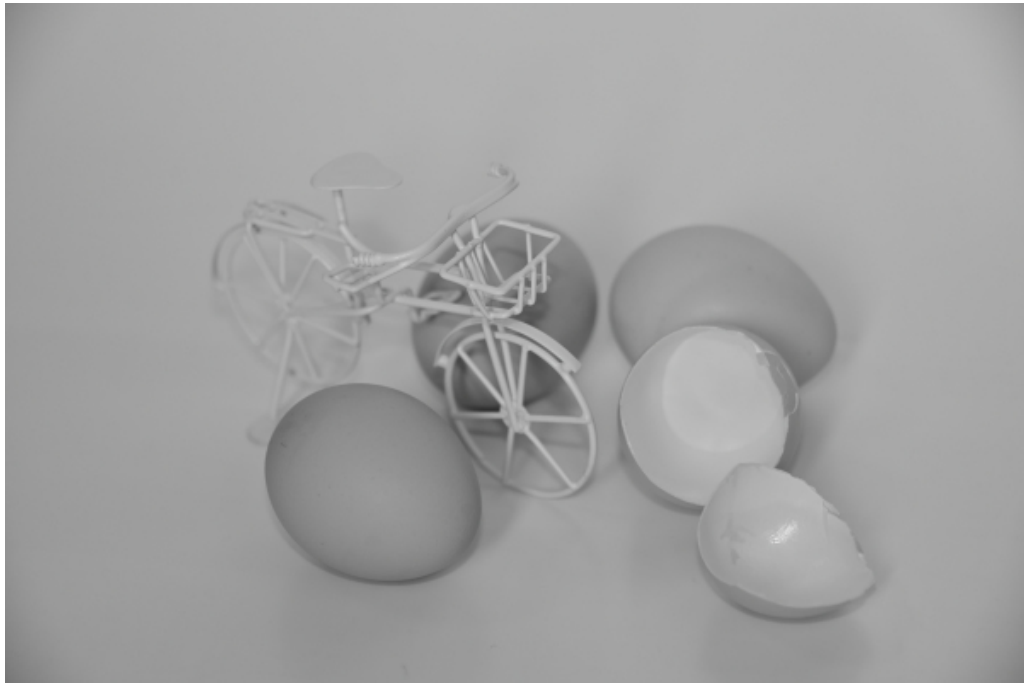
都会のビル街風景などはカラーではゴチャゴチャ感が増しますが、モノクロでは押さえ気味に撮れると思います。



D S C \

上の写真は卵の中に玩具自転車を置いて、カラーで撮りました。

卵の茶色、殻の内部の白、自転車のクリーム色、背景の白（薄い灰色）と、視覚的に4つに分断され、同時に思考的繋がりも分断され、意味不明な感じに陥りますね。



D S C \

同じ内容をモノクロで撮る。

モノクロは白と黒の2色表現なので分類が単純化出来、グラデーション的に繋がれ、違和感が軽減されます。

自転車の輪郭と卵の殻内部の白の印象に目を引かれますが、思考が単純化され本質が見え易くなり、抽象的な表現感覚に切り替え易くなると思いませんか。(ただ単に適当に置いたので、本質は理解し難いですが(笑))

私がモノクロ写真に興味を持った1枚に終着駅の風景写真があります

外国のカメラマンが終着駅で止まっている列車を撮ったものですが、夕日が沈む一歩手前の一瞬を写真にしたものです。

今思えば、手焼きで覆い焼きをしながら仕上げたと思われますが、その情景に感激し、旧大阪梅田貨物駅に通い、陸橋の上から貨物列車を撮ったものです。

梅田のネオン街を背景に、ディーゼル機関車が街路灯に照らされ、静かな一時の休息、汽笛と排気筒から蒸気が抜ける音が微かに響き、月明かりの夜景が魅力的でした。

カラーでは沈みゆく最後の夕日の一光が、カラー部と暗部とのグラデーションでの繋がりが難しく、画面全体の一体化が出来なかったように思います。

当初カラーで挑戦しましたが、モノクロの方がグレー部分にグラデーションが効き、抒情が出ていたように思います。

残念ながらその写真はもうありませんし、旧大阪梅田貨物駅もウメキタ 2 期工事中でもう昔の面影はありません。

次頁はニコンデジタルカメラにはモノクロにも、色々墨の濃淡を変えられる機能が有り、撮影時の特徴を説明したいと思います。

カラーとモノクロを考える②



DSC\

前回の続きでモノクロ撮影について考えましょう。私はニコンの Z6 を愛用しています。

上の写真はモノクロと比較する為に、サザンカをカラーのオートで撮りました。

ニコンには画像調整機能に”ピクチャーコントロール”と呼ばれるボタン1つで画像切り替えが簡単に出来る一覧表がカメラに備わっています。その中にモノクロが白黒写真代表としてあり、モノクロに濃淡の違いでチャコール、カーボン、グラフィイト、バイナリーと4種が別があり、同一の一覧表で簡単に操作出来ます。

それではそれぞれの特徴を掲載します。

白黒写真の代表としてモノクロ



モノクロ写真の基本である、白、黒、グレーをバラン良く配合されて、立体感をあまり損なわず、見ごたえある写真に仕上がります。

カラー写真は立体の被写体を平面画面上に立体化します。その為に多くの色や陰影、グラデーションなど視覚的な変化を多用します。上記モノクロ画像は白、黒、グレー効果で立体感が表現されますが、下記 4 機能は立体感を犠牲にして、写真の本質の表現に迫る撮影方法とも言えます。以下モノクロ画像との差異を説明します。

チャコール



モノクロ画像に比べると白っぽく薄墨で仕上げた、立体感の弱い水墨画風になります。

影部の黒つぶれやライト部の白とびを抑え気味に、軟調なモノクローム画像になります。
影部が薄いので立体感が弱く、白黒の世界に柔らかさを演出できます。

画像の影部が薄いので、細部まで見せたい風景写真に向いています。

カーボン



チャコールと反対で黒を基調にしたグラデーションで、黒を強調し重量感のある画づくりになります。

主役を強調したい時や、多重露出撮影など他の物と掛け合わせたい時に黒背景部は載せやすいこともあります。

グラフィイト



モノクロ画像に比べるとグレーの濃い部分を黒っぽく色付けし、輪郭もくっきりとして、効果的な光の表現でつややかな黒に見える。コントラストと輪郭を強めた硬調なモノクローム画像になり、メリハリのある写真になります。

都会的や金属的な表現に適しているので私も多用しています。

バイナリー



ほぼ2階調の白と黒だけの世界を演出。立体感は期待できません。画像の見え方はレンズ内に光を取り入れる量により極端に変化します。これは実際に経験しないと分かりにくいと思いますので撮影経験をお勧めします。上手くいけば線画的なモノクローム画像を撮影出来ます。被写体の表現したい本質を白と黒だけの世界でより強く、個性的に演出できます。

モノクロ + カラーの多重露出写真



モノクロで大阪梅田のビル街とカラーで卵を多重露出撮影しました。

勿論、モノクロ + モノクロの多重露出撮影も面白いです。

多重露出撮影は主役の被写体とカメラマンのアイデアにより、自分の心情を表現する事が出来ます。

お知らせ

多重露出撮影は他者の作品を見る事でも刺激を受けます。

海外作品には良い作品が多く見られます。

多重露出撮影は商業撮影では出来ない、素人の持つ自由な発想と失敗を恐れない探求心が必要です。

オリジナル写真は写真素材サイトの PIXTA と photolibrary で販売中です。

興味のある方は作者名みのすけ で検索して頂ければ幸いです。

よろしければ是非ご高覧ください。

「卵が先か、鶏が先か」写真撮影を考える



D S C \

「卵が先か、鶏が先か」の卵を撮る

卵の写真撮る。

スマホやカメラの高性能化、撮影技術自動化で、撮影者はピント合わせや被写体の明暗調整に気を配るより、被写体の表情や構図に集中すれば良い時代。

女性のカメラファンが増えたのは、自分の子供の寝顔やべそをかいている顔、子供の可愛いシチュエーションが家庭には多く有り、きれいで可愛い画像が簡単に撮れるからだろう。

ペットがいる人なら、独りぼっちにされる時の寂しそうなキュートな顔や、食事時の美味しそうな顔、吠えている野生感など色々撮れる。

切れのある写真を目指すなら自分が可愛い、楽しいと感じる観察眼を磨き、瞬時に写せる技術を高めよう。

コロナウイルスで人生を左右され、気持ちが塞がれている時には、自分の気持ち、内面、落胆原因、私情、感情などを写真で表現し、ストレスを芸術まで高めれば良い。

自分の気持ちの内面を表現するのは、写真技術的には高度になるが、その表現に個人のセンスが現れ、凄い先端的な撮影表現に行きつくかもしれない。悩んでいるより早く実行すべきかも。

とりあえず写真を簡単に表現するには、暗くする時は絞りをマイナスに、明るくするにはプラス側に調整すれば良い。

被写体に鳥や鹿など野生動物や昆虫、花などに興味が向けば、一瞬現れる生き物の威厳や気迫を写し込み、自然界の荘厳な美や脅威、感動を表現出来るだろう。

ただ単に撮るだけの写真から卒業してください。

カラーで沢山の卵と割れた殻を撮る



観賞者の見方にもよるが、私には卵の割れた理由より、殻の配置の仕方をもっとバランス良くリズムカルに出来ないかに興味が湧く。

但し、私にはこのバランス感覚、色彩感覚は今のところは無いので、掲載できる写真は無い。

デジタル時代の若いカメラマンには配置のバランス感覚や色彩感覚に優れた人が多いので、是非伸ばして行って欲しい。

集合写真を考える

集合写真の代表に観光地の記念写真がある

被写体の旅行者達の思いがバラバラなので写真にまとまりが無いが、記念写真には十分である。

しかし卒業アルバムにはおもしろく、見ごたえのある良い写真が多い。

クラスにひとり面白い奴が居り、最後に何かをやらかし皆の笑いを誘う。笑いが全員に伝播し、画面にまとまりが出来、そのシャッターチャンスをものした写真は、観賞者

にも状況が伝わり共感を呼ぶ。

ドラマ性を与える為に玩具の鶏を置いてみる



「卵が先か、鶏が先か」に始まり、鶏にも参加してもらう。

卵をきれいに撮ることより、割れた殻と鶏の関係に思考が向く。

ここにドラマ性が生まれ、風景写真や街のスナップ写真の情景描写になる。

上手な街のスナップ写真にはその街が持つ臭い、香りやムード、雰囲気収めている。

歴史観を表現出来る街には古い街路灯、古いポスター、飲み屋の提灯、暖簾、店舗看板、橋、鉄道、架橋など古い小物がいい味を出し、昭和、大正、明治感を醸し出す。

現代建築の都市風景を表現するには高層ビルや美術館、博物館など、近代建築や大型商業地、遊園地など多くあり、都会の喧騒、未来世界の先端性、刺々しさ、圧迫感、開放性など新美術、アート、アブストラクトなど表現方法を切り開く道に通じる。

しかし、カラー写真では思考的に、まだ卵と鶏の結び付きにこだわり、一般常識から出られない。

鶏から恐竜に換え、同じ卵をモノクロームで撮ってみる



鶏から恐竜に換わり、モノクロームで撮れば、鑑賞者にはどう見えるのか？

モノクロームは情報量が少なくなり現実感が薄くなり、創造性が拡大し、時空をも飛び越えられる。

観賞者の思考は撮影者の意図に関心が向くことになる。

太古の恐竜時代と現在の風景を一体化して、創造性を広げるのも面白い。

最近のカメラには画像合成機能が付いているので旅先でも簡単に利用できる。

海、山、砂地、木などを多重露出撮影で重ね撮りすると、太古ヘスリップした画像になる。

下の写真は恐竜が大阪城天守閣にタイムスリップした画像



写真は撮影者の意思により簡単に自分の思いや創造性、考えが表現できる。

他人の迷惑にならないように他人の個人情報に気を付けて撮影の幅を広げてください。

お知らせ

多重露出撮影は他者の作品を見る事でも刺激を受けます。

海外作品には良い作品が多く見られます。

多重露出撮影は商業撮影では出来ない、素人の持つ自由な発想と失敗を恐れない探求心が必要です。

オリジナル写真は写真素材サイトの PIXTA と photolibrary で販売中です。

興味のある方は作者名みのすけ で検索して頂ければ幸いです。

よろしければ是非ご覧ください。

カラーとモノクロを考える

著 みのすけ

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
